

# 文化財を訪ねて

## —見てある記—

### 橋川の仏像について(古仏の魅力)

市内には多くの仏像が遺されています。かつて市史編纂事業の際に実施された市内所在の仏像彫刻悉皆調査では、およそ四〇〇躯に近い数が確認されました。阿弥陀や薬師、観音・地藏、不動、毘沙門天等尊像の種類はさまざまで、木彫仏を主流に金銅仏等金仏の作例もいくつも見受けられました。時代は平安時代から江戸時代まで、なかでも江戸時代の仏像がもっとも多く、全体の90%強を占めています。当時の人々の心の中にしみ込んでいた仏教信仰の深さのほどが偲ばれます。

平安・鎌倉時代の仏像は、制作年代が古いだけではなく、美術工芸的にも優れた出来映えの像が多くあります。川田谷泉福寺の国指定重要文化財木造阿弥陀如来坐像(鎌倉時代、弘長二年造立)はその代表例で、すでに明治二九年に旧国室に指定された経歴をもつ名品として知られています。弘長二年(一二六二)といえは、写実性と装飾性に富んだ運慶様や中国宋元様を表す鎌倉彫刻全盛の頃ですが、いまだ前代の藤原様を色濃く残した

穏やかで端正な姿に、拝する人の心を和ませる美しさがあります。

最近、この泉福寺にほど近い川田谷の新御堂という小堂に伝来した本尊の木造十一面観音立像と両脇侍の木造不動・毘沙門天像が、優れた仏像彫刻と評価され市の文化財に指定されました。



▲木造十一面観音立像

十一面観音像は像高一〇四・二cmの立像で平安時代末期の作。頭上に十個の變化面を戴くのは通例ですが、腕は四本とあまり例を見ない珍しい姿をしています。頭部は残念ながら後補され異相の面貌に変わっていますが、胴部のほどよい肉付けと美しい衣文表現に端麗優美な藤原彫刻の特色がよく表れた美作の一つと賞せられます。両脇侍の不動・毘沙門天像は像高六〇cm弱と小柄ですが、キラリと光る玉眼(水晶製)の眼を持ち、激しい忿怒

の相を表した動感あふれる姿に、写実的で生彩感のある鎌倉彫刻の特色がよく見える佳品です。制作時代は鎌倉末頃、銘に「応円」という仏師名が確認されたことから、鎌倉仏師の造立と考えられます。



▲木造不動明王立像



▲木造毘沙門天立像

仏像の拝観は事前に許可を得るなど手続きが難しいですが、新御堂像は仏像保護のため現在市の歴史民俗資料館に寄託中ですので、企画展等の機会をみて拝観されてはいかがでしょうか。